

## 「姨捨の棚田」整備計画

令和4年3月  
長野県千曲市



## 目 次

1	「姨捨の棚田」整備計画策定の目的と位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1)	計画の目的	
2)	計画対象範囲	
3)	関連計画における本計画の位置付け	
4)	計画期間	
2	計画策定の体制と経過・・・・・・・・・・・・・・・・	5
1)	体制	
2)	経過	
3	計画対象範囲の特性、本質的な価値・・・・・・・・・・・・・・・・	6
1)	名勝及び重要文化的景観としての「姨捨の棚田」の特性	
2)	名勝「姨捨（田毎の月）」の指定説明	
3)	重要文化的景観「姨捨の棚田」の選定説明	
4)	本質的な価値	
4	現状と課題の整理・・・・・・・・・・・・・・・・	7
1)	棚田耕作に関する現状と課題	
2)	多面的な活用に関する現状と課題	
3)	活用施設に関する現状と課題	
4)	体制に関する現状と課題	
5	整備目標と基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・	15
1)	整備目標	
2)	基本方針	
6	整備方針と事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・	16
1)	耕作条件の改善	
2)	棚田の魅力向上	
3)	交流人口の増加	
4)	体制の整備	
7	整備事業実施における検証・・・・・・・・・・・・・・・・	20

別表 姨捨の棚田整備計画体系  
付図



## 1 「姨捨の棚田」整備計画策定の目的と位置付け

### 1) 計画の目的

「姨捨の棚田」整備計画（以下、「本計画」という。）は、名勝指定並びに重要文化的景観選定を受けた「姨捨の棚田」の整備及び活用のための計画である。

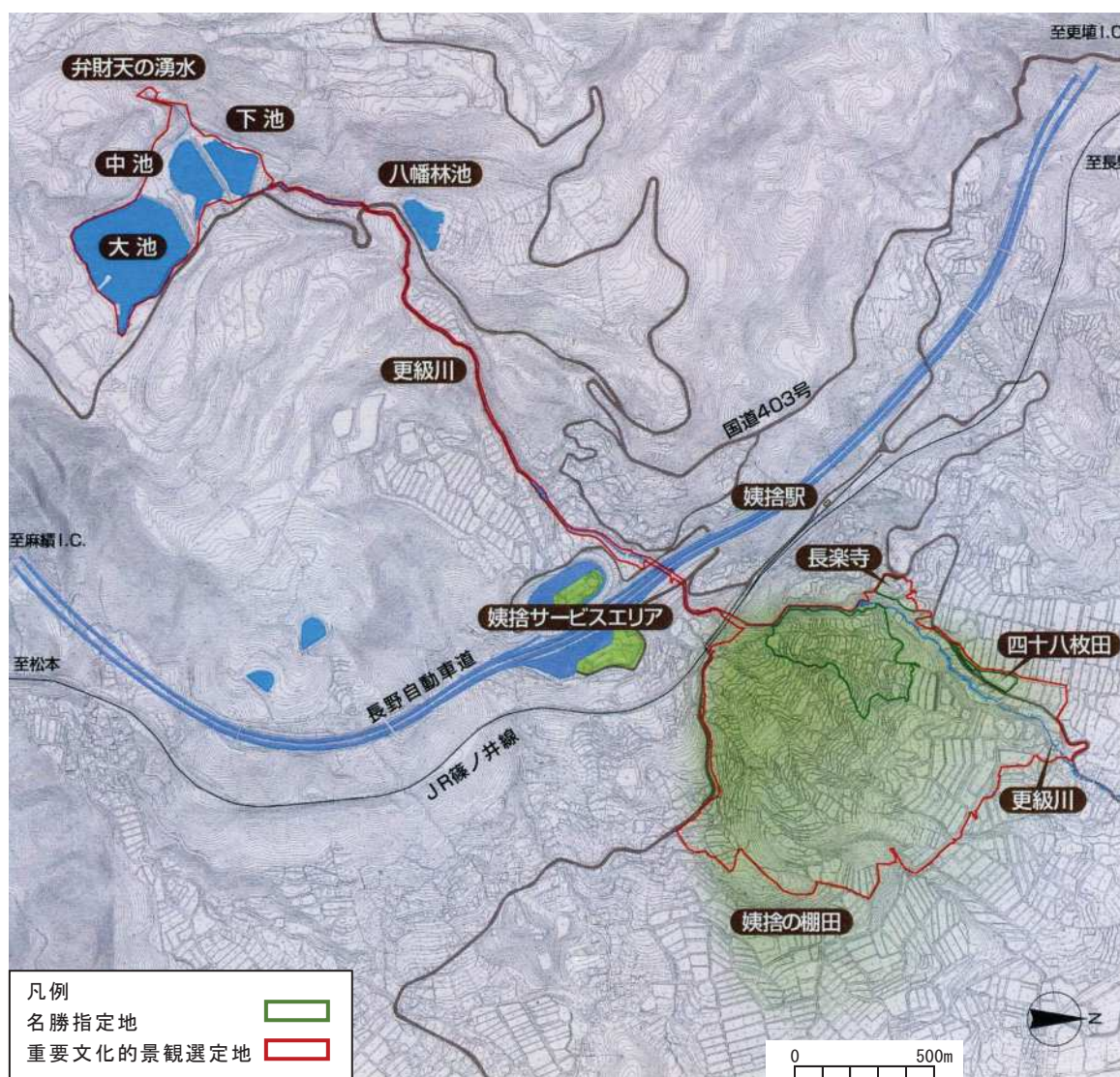


図1 名勝「姨捨（田毎の月）」指定地及び重要文化的景観「姨捨の棚田」選定地

### 2) 計画対象範囲

本計画における計画対象範囲は、名勝「姨捨（田毎の月）」指定地及び重要文化的景観「姨捨の棚田」選定地とする。ただし、長楽寺及び水源地である大池、水源地と棚田をつなぐ更級川を除く。また、計画対象範囲の内、ほ場整備地区を除いた範囲を「棚田地区」、重要文化的景観選定地・整備レベルⅢ（部分整備地区）に該当する範囲を「長尾根地区」と呼ぶこととする。

計画対象範囲の面積及び土地利用の現況は「付図1 姨捨の棚田土地利用現況図」に示したとおりである。地区ごとの面積は名勝指定地 6.2ha（四十枚田地区 0.3ha、姪石地区 2.6ha、上姪石地区 3.3ha）、重要文化的景観選定地 44.4ha（長尾根地区



25.3ha、ほ場整備地区 10.1ha、その他更級川、山林等 9.0ha) となり、全体面積は 50.6ha となる。そして、棚田地区と更級川、山林等で構成された範囲である 40.5ha が棚田景観の特徴を表している。また、棚田地区の農地は 27.5ha であり、水田が 21.0ha を占める。なお、棚田地区水田の耕作区分は個人耕作者 11.1ha、保全団体 6.0ha、荒廃地 3.9ha となり、個人及び保全団体が耕作を行っている面積は 17.1ha となる。

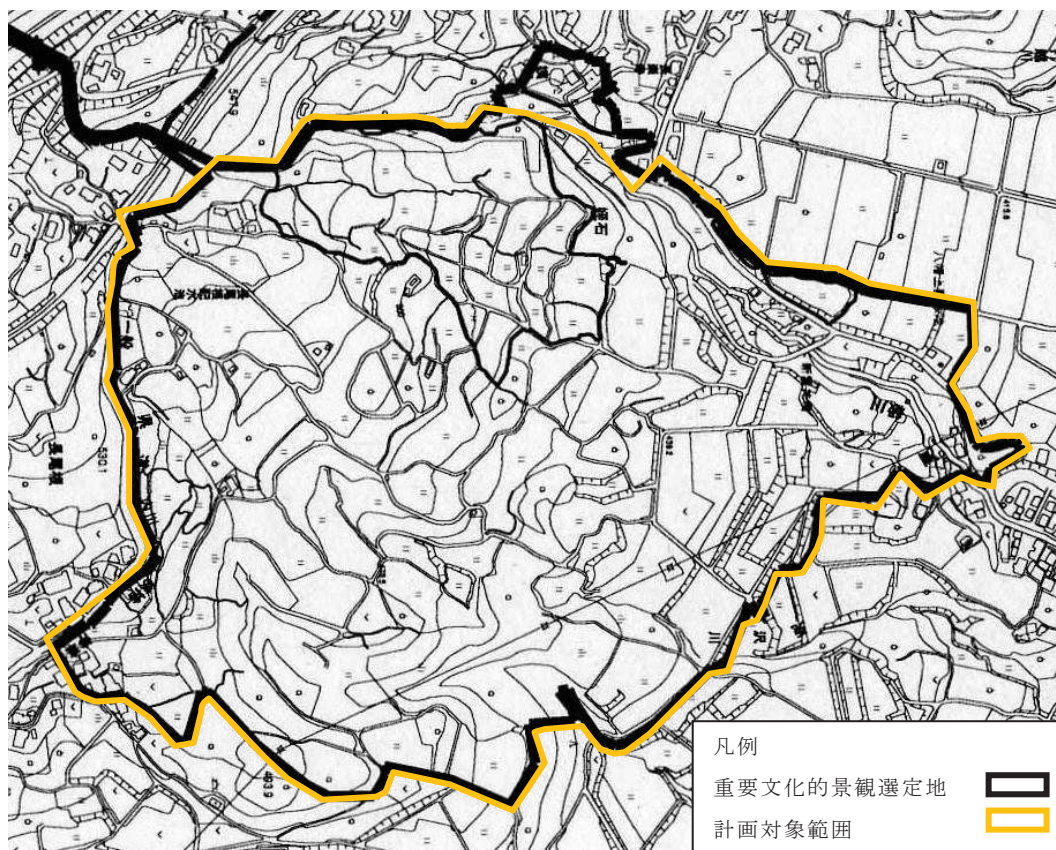


図2 計画対象範囲



写真1 名勝指定地 四十八枚田地区1

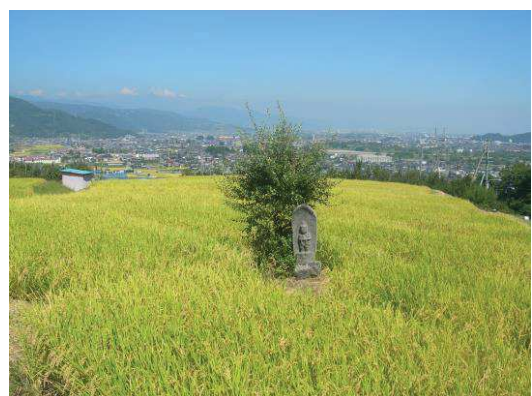


写真2 名勝指定地 四十八枚田地区2





写真3 名勝指定地 姪石地区1



写真4 名勝指定地 姪石地区2



写真5 名勝指定地 上姪石地区1



写真6 名勝指定地 上姪石地区2

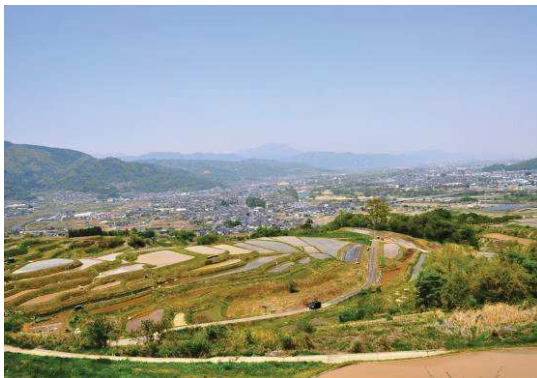


写真7 重要文化の景観選定地 長尾根地区1



写真8 重要文化の景観選定地 長尾根地区2



写真9 重要文化の景観選定地 ほ場整備地区1



写真10 重要文化の景観選定地 ほ場整備地区2

### 3) 関連計画における本計画の位置付け

本計画は、本市の最上位計画である「第三次千曲市総合計画」に基づき、「千曲市文化財保存活用地域計画」及び「名勝「姨捨(田毎の月)」保存管理計画」(以下、「名勝計画」)、「姨捨棚田の文化的景観保存計画」(以下、「文景計画」)を上位計画とし、景観関連施策や農業振興施策等を関連計画として連携を図るものとする。

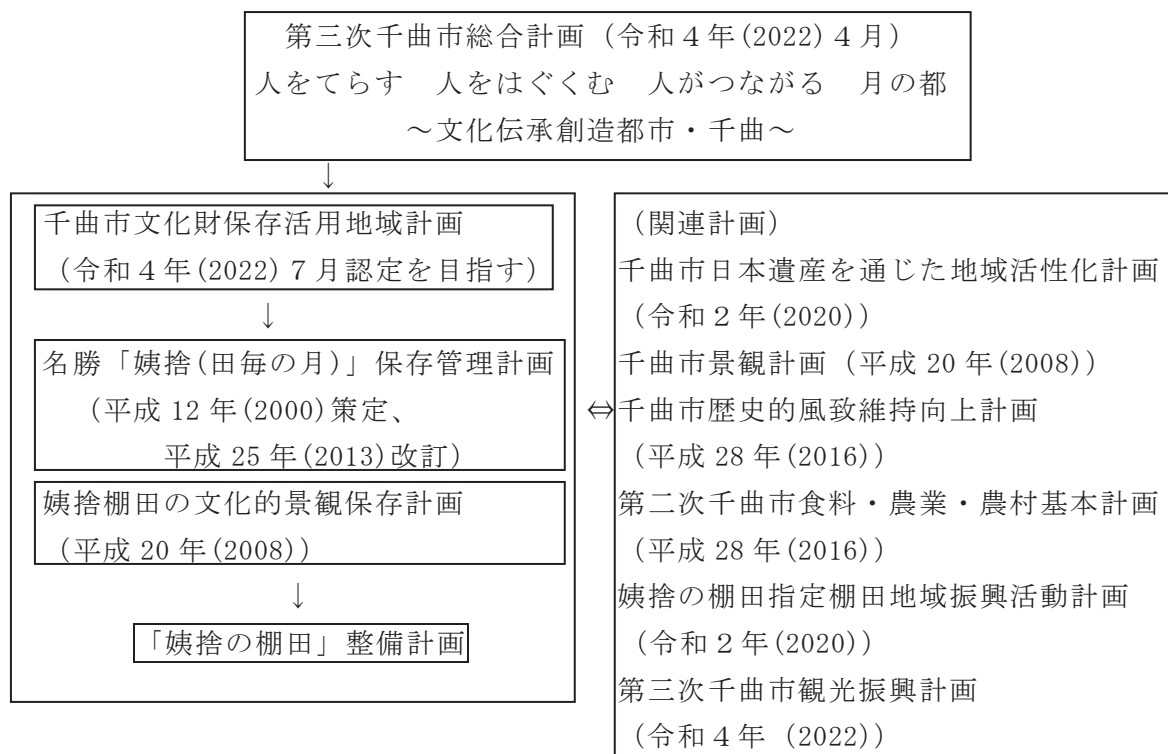


図3 上位計画・関連計画との相関図

### 4) 計画期間

本計画の計画期間は令和4年度（2022）から令和13年度（2031）までの10年間とする。

計画期間は前期5年・後期5年とし、前期計画期間経過時に進捗状況进行评估し、後期計画期間への見直しを行うこととする。



## 2 計画策定の体制と経過

### 1) 体制

計画の策定にあたっては、棚田保全団体や学識経験者を中心とした「姨捨の棚田整備委員会」を組織し検討を行うと共に、個人耕作者や保全団体からの意見聴取を行った。

表 1 姨捨の棚田整備委員会

役職	氏名	役職	分野
委員	内川 義行*	信州大学農学部准教授	農業土木学・農村計画学
	金井 實*	千曲市姨捨棚田名月会	棚田保全団体
	木村 和弘*	信州大学名誉教授	農業土木学・農村計画学
	(平成 30 年度～令和 2 年度)		
	佐々木邦博*	信州大学名誉教授	造園学・景観学
	佐藤 利雄	千曲市西部土地改良区理事長	土地改良区
	佐藤 基	千曲市棚田保全推進会議会長	棚田保全団体
	佐野富美子	長楽寺・四十八枚田保存会	棚田保全団体
	武井音兵衛	千曲市景観審議会委員	景観
	中島 峰広	早稲田大学名誉教授	棚田保全
	堀田 恭子*	立正大学文学部教授	環境社会学
	米山 淳一*	地域遺産プロデューサー	地域遺産
(* 姨捨の棚田整備委員会小委員会)			
指導	平澤 毅	文化庁文化財第二課名勝部門主任文化財調査官	
	下間久美子	文化庁文化財第二課文化的景観部門主任文化財調査官	
	永井 ふみ	文化庁文化財第二課文化的景観部門文化財調査官	
	谷 和隆	長野県教育委員会文化財・生涯学習課	
	(平成 30 年度、令和元年度)		
	上田 典男	長野県教育委員会文化財・生涯学習課	
	(令和 2 年度)		
	猿谷 大和	長野県教育委員会文化財・生涯学習課	
	費田 明	長野県教育委員会文化財・生涯学習課	
関係機関	千曲市総務部行政マネジメント室		
	千曲市企画政策部日本遺産推進室・総合政策課		
	千曲市経済部農林課・観光交流課、千曲市建設部都市計画課・建設課		
	千曲市市民環境部環境課		
事務局	千曲市教育委員会歴史文化財センター		

### 2) 経過

計画策定に当たっての経過は以下のとおりである。

#### ①耕作者、保全団体からの意見聴取、現地協議

平成 27 年（2015）7 月、平成 28 年（2016）1 月、平成 29 年（2017）6 月、平成 30 年（2018）4 月、令和元年（2019）6 月

#### ②姨捨の棚田整備委員会

平成30年（2018）10月 5 日 整備計画の策定について  
 令和 2 年（2020）8 月12日 整備計画について  
 令和 3 年（2021）3 月22日 整備計画骨子案について

令和 3 年（2021）12月14日 整備計画素案について

令和 4 年（2022）3月22日 整備計画案について

③姨捨の棚田整備委員会小委員会

令和 2 年（2020）12月 1 日 整備計画骨子について

令和 3 年（2021）1月19日 整備計画作成の進め方について

### 3 計画対象範囲の特性、本質的な価値

#### 1) 名勝及び重要文化的景観としての「姨捨の棚田」の特性

「姨捨の棚田」は、約 40ha、1,500 枚に及ぶ棚田を一望にできる眺望景観で、見渡すことのできる棚田の枚数は日本有数であり、眼下に広がる千曲川や善光寺平を借景とした、壮大な景観が特徴である。

古くから月の名所として知られ、文学的・歴史的に有名な長楽寺と棚田における農業の継続によって生み出される景観が平成 11 年（1999）、名勝に指定された。平成 18 年（2006）には長楽寺と姪石地区の一体としての景観を確保するため、上姪石地区が追加指定された。また、名勝指定地を取り巻く棚田と、棚田を潤す水源である大池並びに更級川が平成 22 年（2010）、重要文化的景観の選定を受けた。さらに、令和 2 年（2020）には「月の都 千曲 - 姨捨の棚田がつくる摩訶不思議な月景色 田毎の月 -」が日本遺産に認定され、棚田が主要な構成文化財の一つとなっている。

その特性については、文景計画において、「棚田の水系連続性」、「文学・歴史性」、「棚田の歴史的変遷過程」の 3 つの観点があり、各特性が重層的な関係をもちながら成り立っているとしている。

#### 2) 名勝「姨捨（田毎の月）」の指定説明

姨捨（田毎の月）は、聖山高原を背に善光寺平を一望する標高 460m から 560m までに至る面積約 25ha の景勝地の中にある棚田である。16 世紀頃から形成されていた棚田は、江戸時代から文学・絵画の題材に取り上げられるなど、風致景観の優秀な記念物であるので、名勝にして保存を図るものである。（平成 11 年 5 月 10 日付庁保記第 11 の 2 号による名勝指定説明）

江戸時代後半期に、和歌・俳諧・絵画等を通じて月見の名所として広く知られた千枚田とその展望地点である長楽寺の境内。今回、「姨捨山十三景」に含まれる宝ヶ池・甥石、既指定地と長楽寺境内の間にあって一帯の眺望景観を構成する棚田の区域などを追加指定する。（平成 18 年 1 月 26 日付 17 庁財第 331 号による指定説明）

#### 3) 重要文化的景観「姨捨の棚田」の選定説明

姨捨の棚田は、水源となる大池から更級川へと繋がる水系を軸として、用水や田越の給水方法、「ガニセ」と呼ぶ暗渠による排水方法が網の目のように張り巡らされ、中世末期から近現代に至るまで継続的に営まれてきた農業の土地利用の在り方を示す独特の文化的景観である。（平成 22 年 2 月 22 日付庁財第 192 号による選定説明）

#### 4) 本質的な価値

「姨捨の棚田」は、平安時代以来、月の名所として著名となっていた「姨捨」の地であって、16世紀頃から形成されてきた棚田に月が映る情景を「田毎の月」と表現した景勝地である。江戸時代以降、文学・絵画の題材に取り上げられるようになると月見の名所となり、松尾芭蕉を始めとする多くの文人・墨客が来遊した。姨捨が有名になるにつれ、俳句に読み込まれる場所あるいは姨捨の見所として「姨捨十三景」が成立する。「姨捨十三景」に選ばれた地点は諸説あるものの、展望地点となる長楽寺から望むことのできる近景から遠景までが含まれており、今日見られる眺望景観がその題材となっている。

棚田の周囲には耕作者の集落が展開し、水源地である大池から更級川を介し棚田へと繋がる水系を軸とした水利形態と相まって独特の農業集落景観を形成している。この農業集落景観は近世初期に成立し、現在までその基本的形態が受け継がれている。また棚田の区画形状には旧来のままの区画やほ場整備による区画、オーナー制を取り入れるために復田整備した区画があり、棚田の時系列的変遷を一望に概観することができる。

「姨捨の棚田」の本質的な価値は、歴史的・文学的な背景を持った棚田が周囲の眺望景観と併せて時系列的な変遷を経つつ、現在まで受け継がれてきていることにあるといえる。

#### 4 現状と課題の整理

計画対象範囲の本質的な価値は、前章で述べたとおりであるが、その特徴である眺望景観を維持するためには耕作の継続を欠かすことができない。

ここでは、計画対象範囲の特性である眺望景観維持のために必要と考えられる現状と課題について、「棚田耕作に関すること」、「多面的な活用に関すること」、「活用施設に関すること」、「体制に関すること」の4つに分けて整理を行った。(別表「姨捨の棚田」整備計画体系)なお現状の把握にあたっては、令和元年度「千曲市姨捨地区農業振興に関する意向調査」(表2、図4)及び令和2年度「日本遺産来訪者動向分析調査」(図5)等を参考とした。

##### 1) 棚田耕作に関する現状と課題

###### ①現状

名勝計画及び文景計画において、計画対象範囲は地区毎の特性に合わせ、農業的要素についてレベルⅠ～Ⅳの整備水準並びに適用すべき農法及び耕作の主体者が示されている。

四十八枚田地区(レベルⅠ)及び姪石地区(レベルⅡ)においては、棚田オーナー制を含めた保全団体による耕作が行われ、上姪石地区並びに長尾根地区(レベルⅢ)では、所有者(耕作者)による耕作が主であり、一部に保全団体による耕作が行われる。上姪石地区は、名勝整備事業により管理道・水路の整備が行われた結果、荒廃地であった棚田が復田された区画がある。ほ場整備地区(レベルⅣ)は所有者による耕作が行われている。なお、オーナー制を実施している姪石地区では約100

組のオーナーを受け入れている。

また、計画対象範囲では集中豪雨等による災害が度々発生している。平成 24 年（2012）7 月に発生した集中豪雨では、48 か所の畦畔法面崩落や棚田への土砂流入という被害が発生した。耕作者の水田経営面積は平均 16.6 a であり、自給的農家が圧倒的に多く、復旧に係る負担が重くのしかかったため、平成 24 年 9 月に「千曲市姨捨の棚田災害復旧に関する要綱」を制定し、計画対象範囲における災害復旧は、千曲市の負担により実施することを可能とした。

## ②課題

四十八枚田地区は伝統的な形態を残している「姨捨の棚田」の象徴として、旧来の農法の継続を基本としているが、耕作を担う保全団体である四十八枚田保存会の高齢化が進み、その継続が困難となっている。耕作の省力化を図るために小型機械の使用を前提とした道路整備の要望が出ているが、保存管理方針を踏まえた検討が必要である。

姪石地区では棚田オーナー制を実施するための整備が行われ、平成 8 年（1996）からオーナー制が始まったが、20 数年が経過し、整備した施設の老朽化が進んでいるため、対策が必要である。また、当初、50 組であったオーナーが令和 3 年（2021）には 100 組に増えており、これに伴う駐車場や管理機器庫が不足している。

個人耕作地が主となる上姪石地区、長尾根地区においては荒廃地が存在し、その解消が課題となっている。長尾根地区は重要文化的景観選定後、整備が行われず、道路から直接棚田に進入することが難しい区画も存在している。この地区の耕作者、保全団体から行った意見聴取では、耕作の基盤となる道路・水路整備が求められている。

中規模の基盤整備が行われ、中型の機械による耕作が可能となっているほ場整備地区においても荒廃地が存在しており、解消に向けた対策が必要である。

豪雨等による災害に対する対応方針については名勝計画で、計画対象範囲の基本的形態が土坡の法面であることを踏まえて復旧の検討を行うこと等が定められており、これに基づいた工法の検討が必要である。

## 2) 多面的な活用に関する現状と課題

### ①現状

「姨捨の棚田」は、農耕地とそこを取り巻く歴史的・文学的景観だけでなく、豊かな自然環境に恵まれたダイナミックな景観も魅力の一つであり、計画対象範囲とその周囲には、棚田景観のアクセントとなる樹林地が点在している。

また計画対象範囲には、昭和 60 年頃まで環境省のレッドデータブックで絶滅危惧ⅠA 類に指定されているオオルリシジミが生息していたが、乱獲により絶滅してしまった。豊かな自然環境の象徴として、オオルリシジミの復活に向けた取組みが始まっている。

来訪者に対しては、地元の団体が姨捨駅や日本遺産センターを拠点としてボランティアガイドを実施しているほか、恒例のイベントである観月祭が行われている。令和 2 年（2020）に計画対象範囲を含む一帯が日本遺産に認定されたことから、日



本遺産ガイド養成講座を開講し、その受講者がガイドを行っている。

棚田を使った自然保育やワーケーション（テレワーク）の取組が行われ、定住人口の増加に向けた活動も起きている。また、市内では産業団地の整備が進み、大手精密機械メーカーや建機リースメーカーが進出を発表している。

## ②課題

樹林地は手入れが行われず、景観を阻害している要因となっている。また、荒廃地の存在は景観を阻害するだけでなく、人の手が入ることにより保たれている自然環境や水管理に影響を与え、棚田耕作の障害となっているため、対策が必要である。

日本遺産認定を契機として、来訪者に対するガイドは、棚田の魅力だけでなく、日本遺産を構成する文化財の魅力を伝えることも必要となった。

ワーケーションの取組は始まったばかりであり、定住人口の増加のためには周知と定着が必要である。

## 3) 活用施設に関する現状と課題

### ①現状

計画対象範囲への主要なアクセスは四十八枚田方面からと、長尾根方面からの2か所となっている。令和2年（2020）に実施した「日本遺産来訪者動向分析調査」によると、県外からの来訪者は姨捨 SIC、更埴 IC、戸倉上山田温泉を経由している傾向がうかがえる。また、千曲市統計書 2020 年版（令和3年（2021））によると、令和2年（2020）における姨捨 SIC の利用台数はコロナ禍により前年の 1,125 台/日から 990 台/日に減少した。この間における更埴 IC～麻績 IC 間の利用台数が 53,992 台/日から 43,925 台/日に 18.6%の減少となる中で、姨捨 SIC の通行量は 12.0%の減少にとどまっており、日本遺産認定効果で利用台数の減少に歯止めがかかっている可能性がある。

駐車場は、来訪者用として日本遺産センター、主に棚田オーナー用として新雲井橋駐車場が設置されている。

計画対象範囲には説明板、案内看板を設置しているが、見学路の指定がなく、来訪者が自由に棚田を散策できる状況となっている。

ガイドダンス、物販、飲食等の施設として日本遺産センターの整備が進み、令和3年（2021）12月にグランドオープンした。

便益施設となるトイレは、来訪者の起点となる姨捨駅、日本遺産センター及びオーナー制の拠点となる姪石苑に設置しているが、長尾根地区には設置されていない。また、オーナー用の休憩施設として上姪石地区に四阿を設置しているが1棟のみである。

### ②課題

棚田内の道路は一般車の通行に適さず、アクセス道路から棚田内に進入し、脱輪等の事故や耕作の支障となっているため、対策が必要である。加えて、来訪者の車両が棚田内を通行することのないよう、棚田の外に駐車場を設けるなどの対策を行う必要がある。

棚田内を散策する来訪者により、畦畔の損傷等による耕作への支障、急勾配の道

路で来訪者が転倒する事故が起きているため、対策が必要である。

日本遺産認定により説明板の充実、棚田内散策のための案内板の改良が必要となっている。

ガイダンス、物販等の施設として日本遺産センターがオープンしたが、地域要望を踏まえたうえで、棚田米などの特産品販売の拡充や、あらたな施設の設置を検討する必要がある。

計画対象範囲における公衆トイレは姪石苑の1か所のみで不足しており、来訪者や保全団体のためのトイレ設置が必要である。

田植えや稲刈り時におけるオーナー向けの休憩施設も不足しているため、追加設置を検討する必要がある。

#### 4) 体制に関する現状と課題

##### ①現状

計画対象範囲での耕作は、個人耕作者が耕作面積の半数以上を占め、名月会を始めとする保全6団体による耕作地が3割、残りの2割ほどが荒廃地となっている。

表2-1に示すとおり、個人耕作者の内、70才以上の耕作者の割合は6割を超え、平成17年(2005)から令和元年(2019)のおよそ15年間で倍増している。また保全6団体の内、5団体が平均年齢70才を超えており、後継者問題を抱える組織も出て来ている。

計画対象範囲は、令和2年(2020)に棚田地域振興法による指定棚田地域の指定を受けた。そして、保全団体の取りまとめ組織である千曲市棚田保全推進会議が指定棚田地域協議会の認定を受け、指定棚田地域振興計画に基づき棚田米を使った商品開発等の取組が行われている。

また四十八枚田地区、姪石地区では、民間企業がSDGs活動の一環として、棚田保全推進会議とパートナーシップ協定を結び、耕作維持に向けての新たな取組を始めている。

計画対象範囲及びその周辺における事業は、これまで文化財保護部局、農政部局、観光部局等が個別に実施しており、担当部署間での調整に止まっていた。

##### ②課題

文景計画で指摘されているとおり、「姨捨の棚田」保存における最大の課題は耕作の継続にある。計画対象範囲では、所有者や保全団体など多様な人々により耕作が行われている。これは、「棚田」という耕作条件の不便さから所有者による耕作の維持が困難となったため、保全団体やオーナー制といった外部の力を活用して耕作の維持を図ろうと取り組んでいるものである。後継者対策については、地元での就労機会を確保することで移住・定住人口の確保につなげる等、市全体を挙げての取組が必要となる。

令和元年(2019)に実施した意向調査では、表2-2に示すとおり、「後継者がいない」と答えた割合は「未定」も含めると8割近くにのぼる。ただし、80才以上ではその割合が6割に減少しているため、耕作者の年齢が上がるにつれ、後継者が現れる傾向があるが、それでも半数に満たない。5年後の意向では「やめる」と「縮

小」が合わせて5割に達している。

この意向調査の結果から、計画対象範囲における耕作の継続は、耕作者の年齢区分、後継者の有無等、特に人的資源の面において危機的状況に陥りつつあることが明らかとなった。また棚田耕作を支える保全団体も高齢化により存続が危ぶまれる状況となっている。さらに、耕作者の多くが自給的農家であり、棚田という土地の特性のため、農地の集約や草刈り等の作業に多くの労力を要することから、耕作維持のためには発想の転換を含めた対策が必要となる。

企業との連携による耕作の継続については、オーナー制に参画するだけでなく、企業が独自に棚田の利用権設定を行い保全活動に参加する動きもあるため、企業の保全活動との役割分担の明確化が必要となる。

庁内連携については、計画対象範囲を日本遺産の主要な構成文化財としての整備を進める必要があり、文化財保護と日本遺産地域活性化事業の両立を図るため、一層の強化を図る必要がある。

表2 千曲市姨捨地区農業振興に関する意向調査結果抜粋（令和元年(2019)）  
（網掛は各属性における最も回答割合が高い箇所）

表2-1 耕作者年齢区分

		回答数 (人)	年齢・回答割合 (%)					
			39歳以下	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
全体		104	1.0	6.7	6.7	25.0	35.6	25.0
年齢	39歳以下	1	100	-	-	-	-	-
	40歳代	7	-	100	-	-	-	-
	50歳代	7	-	-	100	-	-	-
	60歳代	26	-	-	-	100	-	-
	70歳代	37	-	-	-	-	100	-
	80歳以上	26	-	-	-	-	-	100
地区	羽尾	35	0.0	2.9	8.6	31.4	34.3	22.9
	長尾根	6	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7	33.3
	大池	11	0.0	9.1	9.1	27.3	45.5	9.1
	姨捨	7	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3
	その他千曲市	39	0.0	5.1	5.1	15.4	38.5	35.9
	千曲市外	6	0.0	16.7	0.0	33.3	50.0	0.0
農家区分	専業農家	21	0.0	4.8	4.8	19.0	42.9	28.6
	第一種兼業農家	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	第二種兼業農家	12	0.0	0.0	8.3	41.7	25.0	25.0
	自給的農家	55	1.8	9.1	7.3	21.8	40.0	20.0

表 2－2 後継者の有無

		回答者数 (人)	回答割合 (%)			
			いる	自身が後継者	いない	未定
全体		101	16.8	4.0	45.5	33.7
年 齢	39歳以下	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	40歳代	7	14.3	28.6	28.6	28.6
	50歳代	7	0.0	14.3	28.6	57.1
	60歳代	25	12.0	4.0	48.0	36.0
	70歳代	37	8.1	0.0	56.8	35.1
	80歳以上	24	41.7	0.0	33.3	25.0
地 区	羽尾	34	11.8	2.9	41.2	44.1
	長尾根	6	50.0	0.0	33.3	16.7
	大池	11	18.2	0.0	63.6	18.2
	姨捨	7	14.3	14.3	28.6	42.9
	その他千曲市	38	18.4	2.6	47.4	31.6
	千曲市外	5	0.0	20.0	60.0	20.0
農 家 区 分	専業農家	21	33.3	0.0	33.3	33.3
	第一種兼業農家	2	0.0	0.0	50.0	50.0
	第二種兼業農家	12	25.0	8.3	33.3	33.3
	自給的農家	55	10.9	5.5	47.3	36.4

表 2－3 5年後の営農意向（令和元年時点）

		回答者数 (人)	回答割合 (%)				
			拡大	現状維持	縮小	やめる	後継者に移 譲する
全体		95	2.1	36.8	23.2	29.5	8.4
年 齢	39歳以下	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	7	14.3	28.6	42.9	14.3	0.0
	50歳代	6	16.7	50.0	33.3	0.0	0.0
	60歳代	24	0.0	54.2	20.8	20.8	4.2
	70歳代	34	0.0	23.5	23.5	47.1	5.9
	80歳以上	23	0.0	34.8	17.4	26.1	21.7
地 区	羽尾	31	3.2	35.5	19.4	32.3	9.7
	長尾根	6	0.0	50.0	16.7	16.7	16.7
	大池	11	0.0	18.2	72.7	9.1	0.0
	姨捨	7	0.0	57.1	14.3	14.3	14.3
	その他千曲市	35	2.9	37.1	11.4	40.0	8.6
	千曲市外	5	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0
農 家 区 分	専業農家	20	10.0	40.0	25.0	20.0	5.0
	第一種兼業農家	2	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	第二種兼業農家	12	0.0	66.7	16.7	16.7	0.0
	自給的農家	52	0.0	32.7	26.9	30.8	9.6



表 2－4 水田経営面積

		回答者数 (人)	回答割合 (%)					
			0a	1～10a未 満	10～20a 未満	20～30a 未満	30～50a 未満	50a以上
全体		59	8.5	20.3	40.7	18.6	8.5	3.4
年 齢	39歳以下	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代	5	0.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0
	60歳代	16	18.8	12.5	31.3	18.8	6.3	12.5
	70歳代	23	8.7	17.4	43.5	21.7	8.7	0.0
	80歳以上	10	0.0	30.0	30.0	30.0	10.0	0.0
地 区	羽尾	23	4.3	21.7	30.4	26.1	8.7	8.7
	長尾根	5	0.0	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0
	大池	8	12.5	12.5	50.0	25.0	0.0	0.0
	姨捨	6	16.7	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0
	その他千曲市	14	14.3	14.3	35.7	21.4	14.3	0.0
	千曲市外	3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
農 家 区 分	専業農家	15	0.0	6.7	46.7	26.7	13.3	6.7
	第一種兼業農家	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	第二種兼業農家	6	16.7	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0
	自給的農家	34	8.8	26.5	41.2	14.7	5.9	2.9

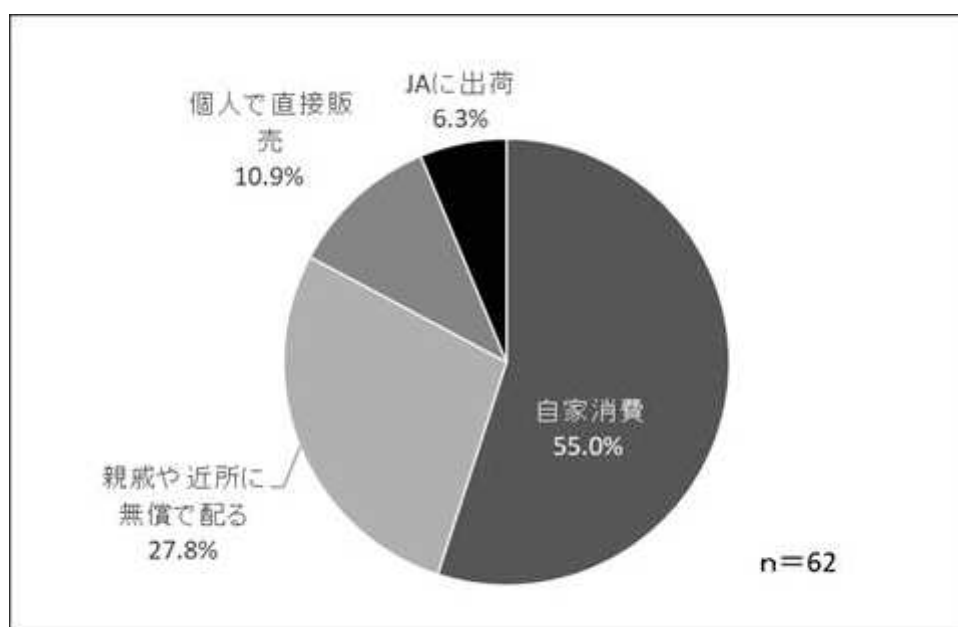


図 4 収穫米の利用割合

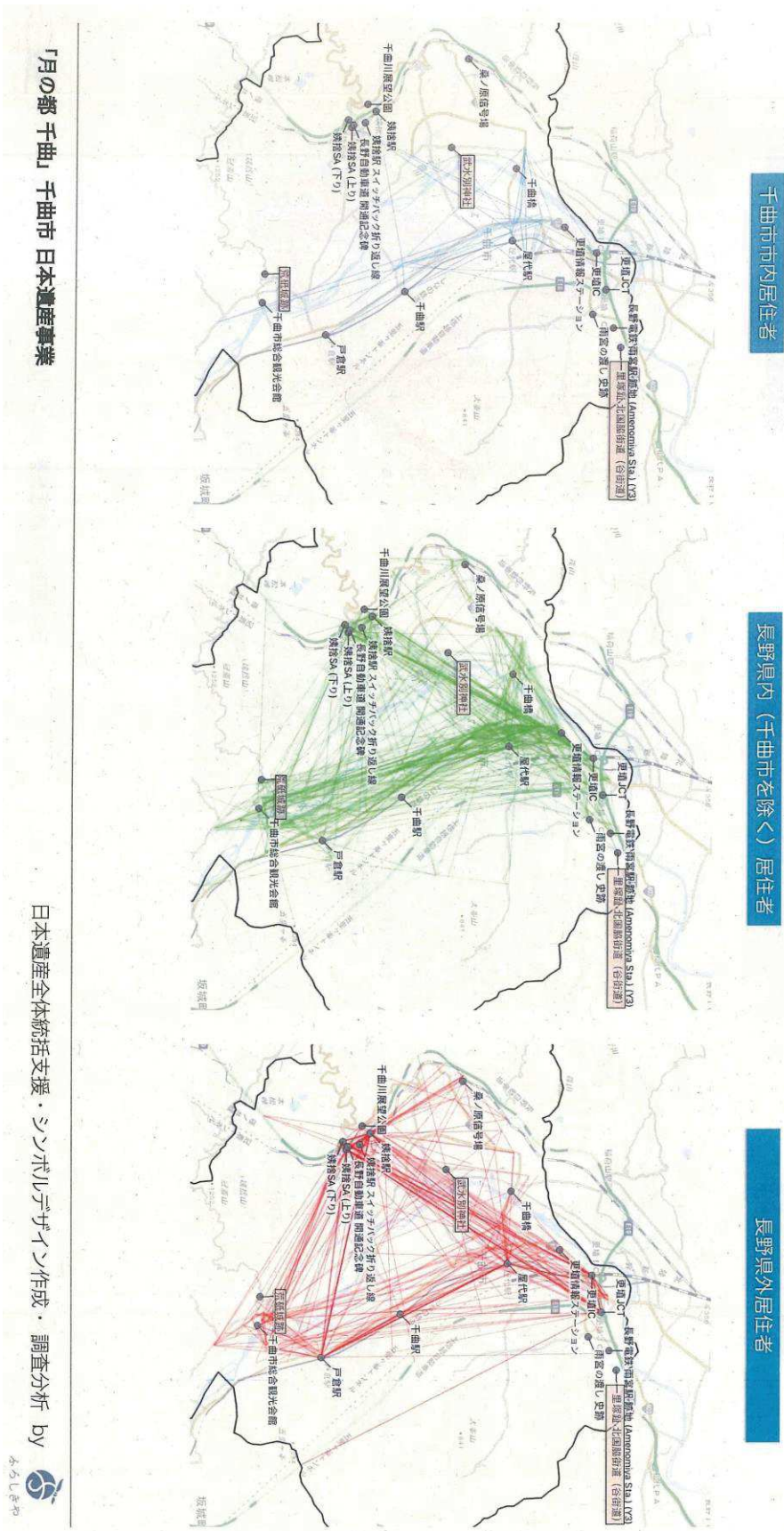


図5 日本遺産来訪者動向分析調査抜粋（令和2年(2020)）  
（来訪者の地域内流動傾向）

## 5 整備目標と基本方針

### 1) 整備目標

前章のとおり現状と課題を整理した結果、計画対象範囲における棚田景観を維持することが困難な状況であることが明らかとなったため、10年後の整備目標を次のように定める。

**人びとの交流を広げ、姨捨の棚田での耕作を維持し、棚田景観の保全を図る**  
**～人をはぐくみ 人とつながる 姨捨の棚田～**

- ①耕作条件の改善及び後継者対策、オーナー制の維持に加え、企業活動等によるあらたな保全活動を推進し、計画対象範囲における現状の棚田耕作面積を維持する。
- ②「姨捨の棚田」の魅力を高め、交流人口の増加を図り、地域を元気にする。
- ③耕作者と来訪者が安全かつ安心して耕作・棚田散策が行える環境を整える。

### 2) 基本方針

整備目標実現のため、現状と課題の整理で分類した4つの項目ごとに基本方針を定める。

#### ①棚田耕作に関すること ―耕作条件の改善―

名勝計画及び文景計画において、農業的要素について整備レベルⅠ～Ⅳまでの整備水準及びその適用範囲が示されていることから、整備レベルに基づいた整備を実施する。併せて、災害復旧に関する整備方針を定める。

#### ②多面的な活用に関すること ―棚田の魅力向上―

棚田は、人の手が入ることで豊かな自然環境に恵まれているが、荒廃地の存在があり、眺望景観を阻害しているため、文化的景観構成要素の視覚的一体化を図る整備を実施する。

日本遺産認定により、更に多くの来訪者が訪れることが見込まれるためガイドを実施し、日本遺産の主要な構成文化財としての棚田の魅力を伝える。

#### ③活用施設に関すること ―交流人口の増加―

耕作者と来訪者が共に安全に耕作・見学ができる整備を行い、交流人口の増加につなげる。また、公衆トイレ等の便益施設について不足・偏在を解消し、利便性の向上を図る。

交流人口の増加により新規耕作者の発掘を期待するため、棚田の魅力を全国に発信する。

#### ④体制に関すること ―体制の整備―

「姨捨の棚田」で保全団体が耕作を担うこととなった経緯は様々であるが、一番の要因は、耕作条件の不便さと社会構造の変化による少子高齢化で後継者がいなくなり、耕作ができず荒廃地が増加していくことを防止することにあった。

棚田景観の維持には耕作の継続が必須であり、従来の耕作者・保全団体による耕作の維持だけでは立ち行かなくなりつつある。後継者の確保に努めると共に、耕作者の代わりとなる新たな受け皿としての体制整備を進める。

日本遺産認定を契機として、令和3年度に市企画政策部に日本遺産推進室が設置されたことから、日本遺産に関する事業については同推進室が司令塔としての役割を果たすこととする。

## 6 整備方針と事業計画

整備目標を達成するため、基本方針に掲げた4つの方針に基づき整備方針並びに事業計画を定める。なお、個別事業の実施にあたっては、別に関係機関と協議を進め、財源等の確保に努める。

### 1) 耕作条件の改善（付図2 耕作条件の改善に関する整備計画）

#### ①名勝指定地 四十八枚田地区（整備レベルⅠ）

整備方針：旧来の区画を保持した形態で耕作を維持する。

事業計画：旧来の区画での耕作が可能となるよう、小型機械の導入・貸与を検討し、耕作の省力化を図る。

実施主体：千曲市（農林課）、保全団体

主な財源：市費

計画期間：前期

#### ②名勝指定地 姪石地区（整備レベルⅡ）

整備方針：大部分の棚田がオーナー制により耕作が継続されていることから、オーナー制を維持する。

事業計画：オーナー田の管理設備である自動給排水施設が老朽化しているため、名勝の構成要素を維持するための施設改修を行う。

オーナー田の増加に伴って管理機器庫並びにオーナー用の駐車場が不足しているため、設置場所や色彩等、景観に配慮しながら追加設置を行う。

実施主体：千曲市（農林課、歴史文化財センター）、保全団体

主な財源：市費/国補助/県補助

計画期間：前期

#### ③名勝指定地 上姪石地区（整備レベルⅢ）

整備方針：所有者の他、保全団体やオーナー制による耕作が行われている。平成25年度から実施した名勝「姨捨（田毎の月）」上姪石地区整備事業により、管理道、水路の整備が行われ、小型機械による耕作が容易となった。引き続き現在の形態を維持しながら耕作の維持を図る。

事業計画：管理道、水路の管理的補修を行う。

実施主体：千曲市（農林課、歴史文化財センター）、耕作者、保全団体

主な財源：市費

計画期間：全期間

#### ④重要文化的景観選定地 長尾根地区（整備レベルⅢ）

整備方針：所有者、保全団体による耕作が行われている。重要文化的景観選定以前に実施された土地改良事業により、農道、水路の整備が行われているが、接道のない棚田も残っている。小型機械による耕作が容易となる整備を



図る。

事業計画：管理道、水路整備を実施し、棚田への接道を確保する。

実施主体：千曲市（農林課、歴史文化財センター）、耕作者、保全団体

主な財源：市費/国補助/県補助

計画期間：前期

⑤重要文化的景観選定地 ほ場整備地区（整備レベルⅣ）

整備方針：県営ほ場整備事業等で10～25a程度の区画規模に整備され、中型機械による耕作が可能となっているため、現行の耕作形態を維持する。なお、本地区においては耕作の基盤となる整備が完了していることから、ハード的整備となる事業計画は設けないこととする。

⑥棚田地域全般 災害復旧に関すること

整備方針：名勝指定地及び重要文化的景観選定地における災害発生時は、市要綱により、市が所有者等に代わって復旧事業を実施している。「姨捨の棚田」の特色は土坡で形成された畦畔であるため、災害復旧にあたっては、その特色を維持しながら復旧することを基本とする。

事業計画：名勝計画に示された災害に対する対応方針を基本とし、土坡の畦畔になじむ工法を検討し、災害発生に備える。

実施主体：千曲市（農林課、歴史文化財センター）

主な財源：市費

計画期間：全期間

2) 棚田の魅力向上（付図3 棚田の魅力向上に関する整備計画）

①文化的景観構成要素の視覚的一体性の回復

整備方針：計画対象範囲における眺望景観は、棚田と棚田を潤す水路、点在する樹林地や周囲に展開する集落など、複合する要素によって形成されているため、これらの要素の一体性の回復を図る。

事業計画：眺望景観を阻害する樹林地は、棚田と樹林地の調和を図りながら除間伐を行う。

荒廃地は所有者、地域住民と連携して在来種の花を植えたり案山子などの設置を行うことにより、景観に与える影響を改善する。

また、荒廃地の復田に向けた検討を行うことにより、荒廃地を利用した活用の取組を検討していく。

なお、計画対象範囲に存在する荒廃地は約3.1haと広い面積があるため、長尾根地区南部を重点区域として取組みを進める。

実施主体：千曲市（農林課）、地域住民

主な財源：市費

計画期間：前期（景観支障林の除間伐）

全期間（荒廃地の環境整備）

②姨捨の豊かな自然環境を取り戻す

整備方針：「姨捨の棚田」は豊かな自然環境に恵まれ、貴重な動植物の生息も確認さ

れているが、乱獲により絶滅してしまったものもあるため、自然環境の維持、向上を図る。

事業計画：計画対象地周辺では昭和60年頃まで絶滅危惧種に指定されているオオルリシジミが生息していたが、乱獲により絶滅してしまった。姨捨の豊かな自然環境の象徴として、オオルリシジミ復活に向けた取組みに支援を行う。

実施主体：保存会、千曲市（環境課）

主な財源：保存会費等

計画期間：全期間

### ③ボランティアガイドの育成

整備方針：ガイド団体が姨捨駅、日本遺産センターを拠点として来訪者にガイドを実施している。日本遺産に認定されたため、その主要な構成文化財であることを踏まえたガイドを実施する。

事業計画：日本遺産事業でガイド養成を行い、実施する。

実施主体：千曲市（日本遺産推進室）、千曲市日本遺産推進協議会

主な財源：市費/国補助

計画期間：前期（ガイド養成）

全期間（ガイド実施）

### ④定住人口の増加に向けた取組み

整備方針：棚田を活用した自然保育、ワーケーション等、新しい働き方の魅力向上に資する取組みを推進する。なお、定住人口の増加に向けた取組みは、全市的に取り組む事業であり、計画対象範囲のみを対象とするものではないため、本計画において事業計画は定めないこととする。

## 3）交流人口の増加（付図4 交流人口の増加に関する整備計画）

### ①棚田見学路の整備

整備方針：棚田内の道路は幅員が狭く急勾配の箇所が多いため、見学車両の通行に適していない。そのため、エントランスとなる幹線道路沿いに駐車場を設置し、棚田内の見学は徒歩を原則とするために必要な整備を行う。

事業計画：姨捨 SIC、戸倉上山田温泉方面からのエントランスとなる、長尾根地区県道沿いに見学者用駐車場を整備する。

駐車場、展望地点、便益施設等を結んだ見学モデルルートを設定し、誘導看板や説明板を設置して、ガイド団体によるガイドコースとする。

展望地点は、棚田と善光寺平を一望する景観を堪能する箇所、棚田を特徴付ける箇所としての整理を行い、説明板等の設置やフォトスポットとしてパンフレット等の作成・配布を行う。また、来訪者が安全に通行できるように見学路の整備を行う。

実施主体：来訪者用駐車場 長野県

見学モデルルート 千曲市（観光課、農林課）、長野県

見学路整備 千曲市（農林課）

説明板等整備 千曲市（歴史文化財センター）

主な財源：市費/国補助/県費

計画期間：前期

#### ②便益施設の整備

整備方針：来訪者のためのトイレや休憩所等の便益施設は不足かつ偏在しているため、設置の検討を行い、利便性の向上を図る。

事業計画：ガイドランス、ガイド拠点、飲食等施設として、日本遺産センターを整備したが、物販施設については日本遺産センター以外でのニーズを把握する。

公衆トイレは偏在しているため、新たに設置を検討する。設置にあたっては、既存建物の用途変更による改修、または計画対象範囲外とする。来訪者、オーナーのための休憩施設も不足しているため、位置やデザイン等、景観に配慮して設置を検討する。

実施主体：日本遺産センター整備 千曲市（日本遺産推進室）

物販施設の検討 千曲市（観光課）、事業者

公衆トイレ 千曲市（観光課、農林課）

休憩施設の検討 千曲市（農林課）

主な財源：市費

計画期間：前期

#### 4）体制の整備

##### ①耕作の受け皿となる体制の整備

整備方針：「姨捨の棚田」の文化的景観の保存は、棚田での耕作維持が必須であるが、所有者、保全団体共、高齢化による後継者不足という現実があるため、その後継者対策と共に新たな耕作の担い手となる耕作支援団体の設立の検討や企業のSDGs事業に係る保全活動への参加を目指す。

事業計画：耕作支援団体の設立にあたっては後継者対策も含めた地域コミュニティの再構築を図る必要があるため、計画期間中において継続的に検討を進めることとする。支援団体の検討に当たっては、農業公社や農業生産法人等、複数の案について幅広い観点から計画対象範囲の耕作維持に適した形態を研究することとする。

支援団体に求められる役割として、オーナー田の管理、一元管理による棚田米のブランド化や新商品の開発、販路の開拓を行うことによる収益確保が挙げられる。また、後継者がなく、耕作ができなくなった棚田の耕作や新規就農に対する相談、就農斡旋等の実施等、棚田耕作維持に向けた情報集約、提供の実施も求められる役割として検討が必要である。計画対象範囲における所有者等の水田の平均耕作面積は16.6aで、自給的経営が多数であることから、農地の集約や棚田米の一元管理といった事業だけでの耕作支援団体の自立は困難が伴うことが予想される。組織の検討にあたっては、棚田以外の事業展開についても視野に入れた在り

方が必要となる。

後継者対策に関して、地元の中高生が棚田での作業ボランティアを募集する等、耕作維持に向けた取組みも始まっているため、その支援を検討する。

実施主体：千曲市（農林課）、企業等

主な財源：市費

計画期間：全期間

## ②市の体制整備

整備方針：日本遺産「月の都 千曲」の主要な構成文化財である「姨捨の棚田」の活用に向け日本遺産推進室を設置し、庁内連携を強化する。

事業計画：日本遺産の活用に関する事業について庁内の情報集約並びに連絡調整を行う。

実施主体：千曲市（日本遺産推進室ほか全関係課）

計画期間：全期間

## 7 整備事業実施における検証

本計画による事業の実施にあたり、各年度末に進捗管理、前期計画期間経過時に進捗評価を行う。進捗管理及び進捗評価は歴史文化財センターが行い、姨捨の棚田整備委員会に報告、協議を行うこととする。

進捗評価は、前期計画期間における成果指標を定め、この成果指標に基づくこととする。

表2 前期計画期間における成果指標

成果指標	基準値 基準年	前期期間に おける目標値	指標設定の考え方
棚田地区における 棚田耕作面積	17.1ha 令和3年	17.1ha	棚田耕作維持に関する取組み状況を示す
計画対象範囲への 来訪者数 （長野県観光地利用者統計調査による「おばすて田毎の月」入込客数）	36,800人 令和2年	65,000人	棚田の魅力向上、交流人口の増加に関する取組み状況を示す

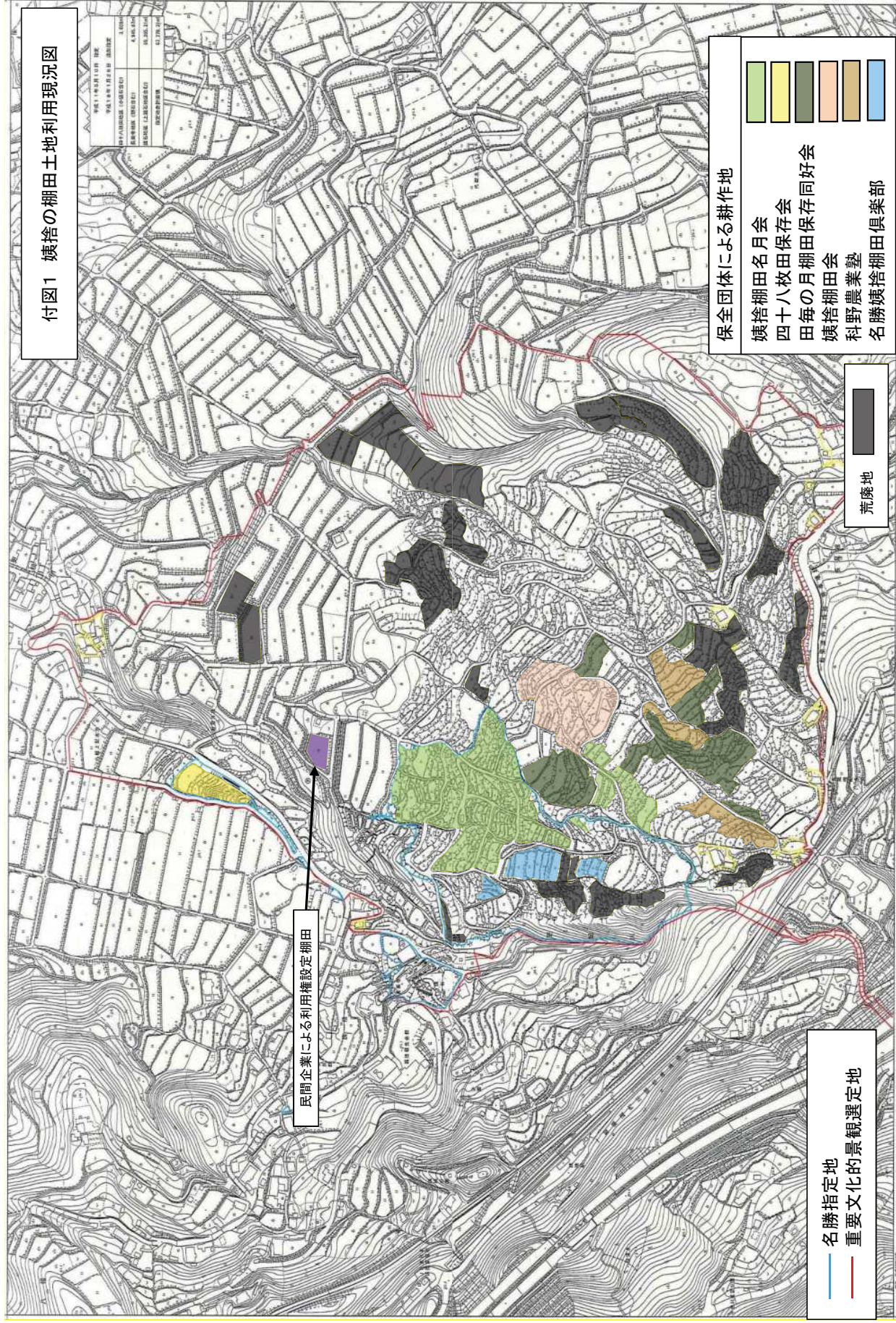








付図1 娘捨の棚田土地利用現況図



娘捨棚田地域土地利用区分 全体：約50.6ha(農地35.9ha、道水路敷10.1ha、山林・原野4.0ha、宅地0.6ha)  
 地区別面積：四十八枚田地区0.3ha、姪石地区2.6ha、上姪石地区3.3ha  
 長尾根地区25.3ha、ほ場整備地区10.1ha、その他(更級川、山林等)9.0ha  
 (地区別面積には、地区内に介する道路、水路敷等を含む)

農地内記：水田29.4ha(ほ場整備地区8.4ha、棚田地区21.0ha)、畑6.5ha  
 棚田地区耕作区分(21.0ha 内耕作面積17.1ha)  
 個人11.1ha、保全団体6.0ha、荒廃地3.9ha

- 保全団体による耕作地
- 娘捨棚田名月会
  - 四十八枚田保存会
  - 田毎の月棚田保存同好会
  - 娘捨棚田会
  - 科野農業塾
  - 名勝娘捨棚田倶楽部

荒廃地







付図2 耕作条件の改善に関する整備計画

土坡の畦畔を基本とする災害復旧

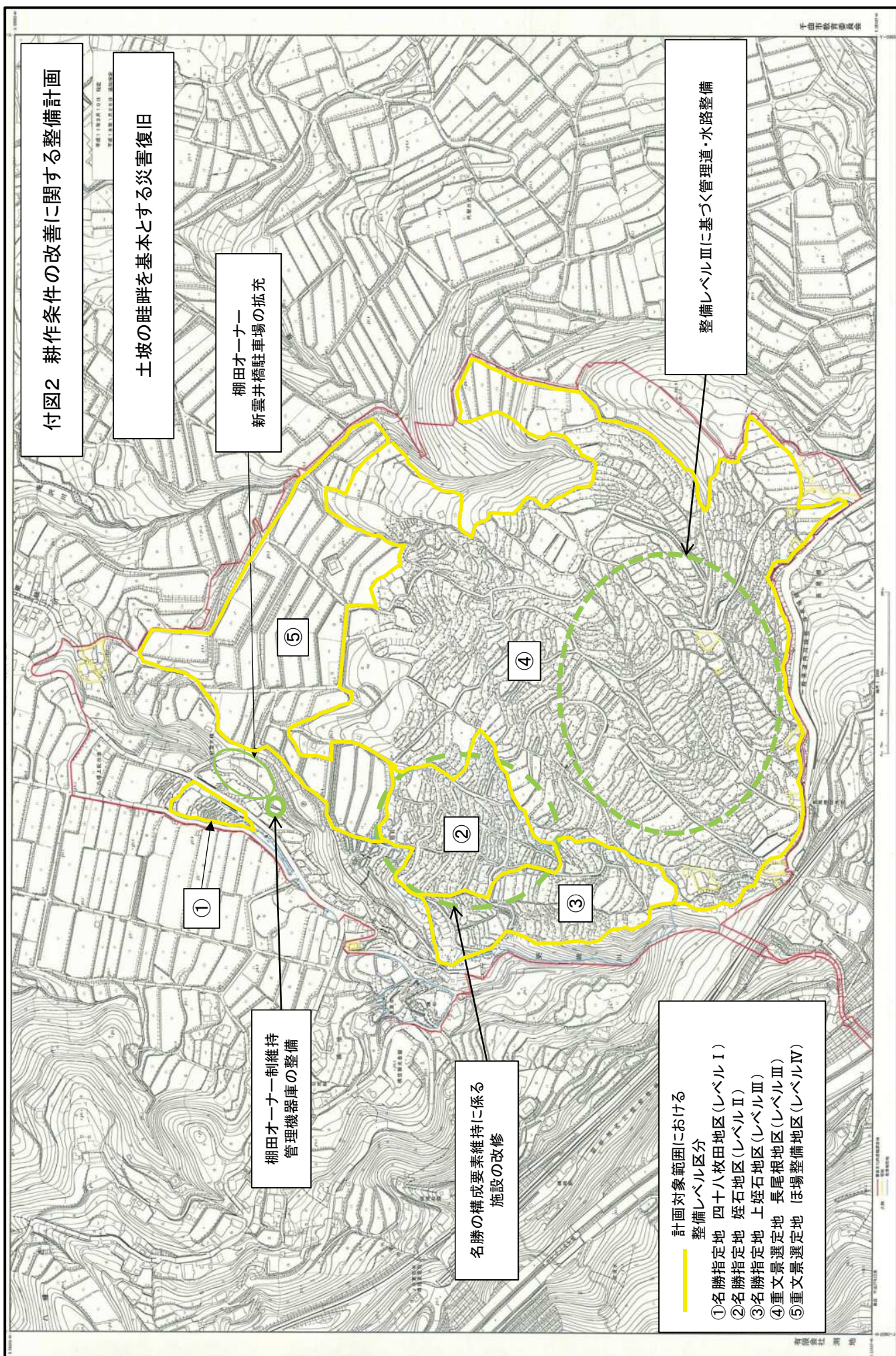
柵田オーナー  
新雲井橋駐車場の拡充

整備レベルⅢに基づく管理道・水路整備

柵田オーナー制維持  
管理機器庫の整備

名勝の構成要素維持に係る  
施設の改修

- 計画対象範囲における  
整備レベル区分
- ①名勝指定地 四十八枚田地区(レベルⅠ)
  - ②名勝指定地 姪石地区(レベルⅡ)
  - ③名勝指定地 上姪石地区(レベルⅢ)
  - ④重文景選定地 長尾根地区(レベルⅢ)
  - ⑤重文景選定地 ぼ場整備地区(レベルⅣ)







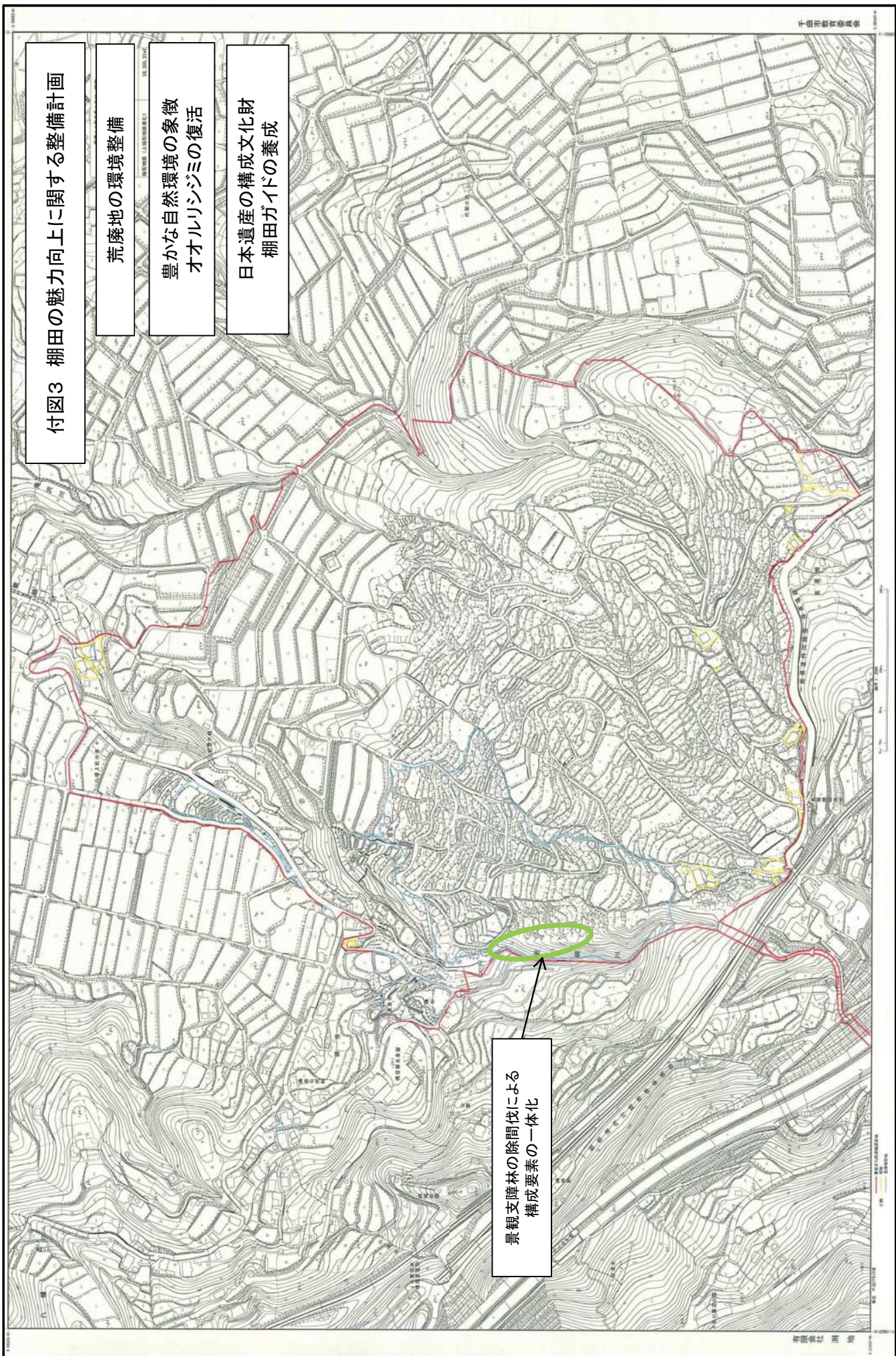
付図3 棚田の魅力向上に関する整備計画

荒廃地の環境整備

豊かな自然環境の象徴  
オオリシジミの復活

日本遺産の構成文化財  
棚田ガイドの養成

景観支障林の除間伐による  
構成要素の一体化

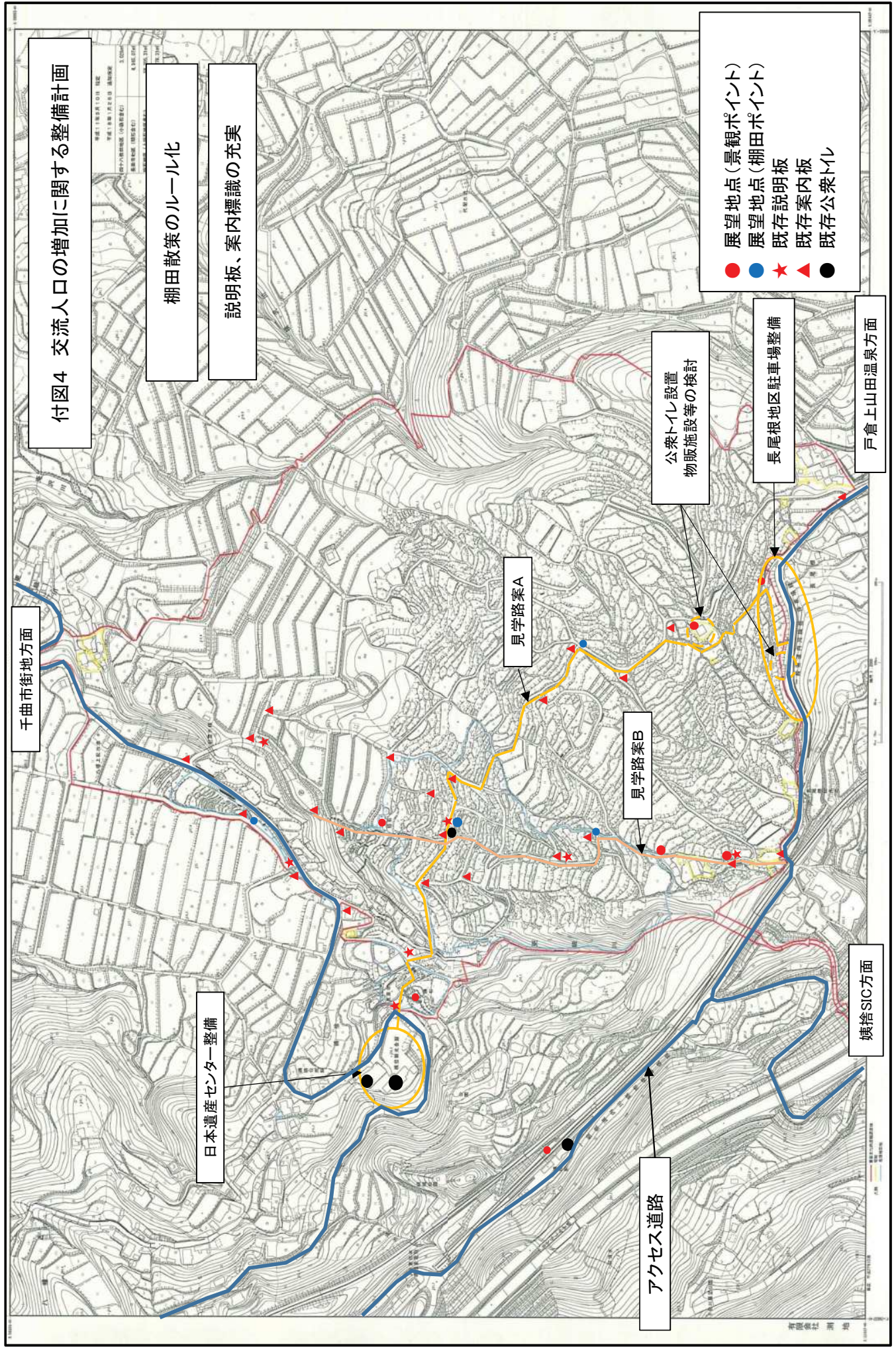








付図4 交流人口の増加に関する整備計画







「姨捨の棚田」整備計画

令和4年（2022）3月

編集 長野県千曲市教育委員会  
長野県千曲市大字桜堂 268-1  
千曲市歴史文化財センター  
電話 026-261-3210  
Mail:bunkazai@city.chikuma.lg.jp

